

遠藤守レポート



都議会予算特別委員会で質問 オリパラ、蒲蒲線などで舛添知事と論戦

平成27年度予算を審議する都議会予算特別委員会が3月16日開かれ、遠藤守都議はオリンピック・パラリンピック開催に向けた課題、新空港線（蒲蒲線）整備、がん対策について都の見解を質しました。概要をレポートします。



●パラリンピック競技団体 都レベルは「半数以下」

舛添知事は日頃から「東京オリンピック成否の鍵はパラリンピックの成功にある」と述べています。ところが、パラリンピックの競技団体の実態を調べると、全国レベルでは競技団体があるものの都道府県レベルではなかったり、専用の事務所や専属のスタッフがいない団体があるなど、組織的にも資金的にも厳しい状況にあります。こうした実態を指摘し、団体への支援や競技力の向上、選手の育成支援を訴えました。

これに対し、担当局長は、パラリンピック全22競技のうち、都レベルの団体があるのは半数以下と回答。舛添知事は「来年度の予算、人員体制を強化し、競技力向上を図るなど選手に最高の舞台を用意する」と約しました。

オリンピック・パラリンピック関係ではこのほか、サイバー攻撃対策、“平和の祭典”の開催都市にふさわしい平和創出事業の充実——を訴えました。

裏面につづく

知事 蒲蒲線整備 「熱意変わらず」

都は3月6日、都内における今後の鉄道整備に関する「中間まとめ」を公表しています。この中には、JR東日本が構想する「羽田アクセス線」など5つの路線が「整備効果が高い」と明記されたものの、新空港線（蒲蒲線）については、それに準ずる扱い（「整備効果が見込まれる」）になっています。

一方、舛添知事（当時は候補）は、昨年2月の都知事選の際、JR蒲田駅前で行われた街頭演説【写真】で、蒲蒲線整備の必要性を訴えていました。そこで、今回の「中間まとめ」で示された考え方と、知事発言のズレについて見解を求めました。これに対し舛添知事は、「私は基本的には考え方は一貫している。（中略）羽田空港へのアクセス向上、蒲田地区の開発について私の熱意は全く変わっていない」と強調し、今夏の最終報告に向け、議論を深める考えを示しました。



（都政新報社より提供）

駒込病院の白血病治療 人材育成に一層の力を！

一般的ながん患者の5年生存率は現在約6割までに向上している一方、“血液のがん”と呼ばれる白血病等は4割弱にとどまっています。

都立駒込病院は、有効な治療法である「造血幹細胞移植」に長年取り組んでおり、全国5つある国の拠点病院に指定されています。ただ、造血幹細胞移植は合併症が起こる頻度が高いなど、高度な治療技術が必要なため、医療人材の育成に一層力を入れるべきと提案しました。

これに対し都は、駒込病院の医師に対する1年間の集中研修の実施、他病院の若手医師の積極受入、関係者を対象とした勉強会の開催——などを通じ、高度な医療人材を育成していく考えを明らかにしました。



駒込病院内を視察（2014年10月30日）